

[翻訳]

# 中央アジアのドゥンガン民族と中国の回回民族<sup>1)</sup>

胡 振 華<sup>2)</sup>  
訳注：犬 塚 優 司

1. 中央アジアのドゥンガン民族
  - (1) ドゥンガン民族の民族名
  - (2) ドゥンガン民族の分布と人口
  - (3) ドゥンガン民族の経済生活、風俗習慣と言語文字
  - (4) ドゥンガン学研究的概要
2. 中国の回回民族
  - (1) 回回民族の民族名
  - (2) 回回民族の形成
  - (3) 回回民族の人口とその分布
  - (4) 回回民族の言語の特徴
  - (5) 回回民族の貢献
  - (6) 回族学研究的概要

## 1. 中央アジアのドゥンガン民族

ドゥンガン民族、すなわちドゥンガン族、彼らは19世紀後半の50年間、中国西北回民武装蜂起が失敗した後、強制的に中央アジア地域に移住させられた、一部の陝西、甘肅、寧夏、新疆の回族の人々<sup>3)</sup>の末裔であり、主に陝西、甘肅の回族の末裔である。

### (1) ドゥンガン民族の民族名

ドゥンガン族は「回回」、「老回回」、「中原人」と自称していたが、1924年ソ連が民族区分を実施した際、民族の名称が「ドゥンガン」と定められた。

ドゥンガン民族の民族名に関して、学者たちには以下の何種類かの解釈がある。

- 1) 「ドゥンガン」は「東甘」に由来する。すなわち、彼らは中国の「東部甘肅」から来ている。
- 2) 「ドゥンガン」は「東岸」に由来する。すなわち、彼らは中国の「黄河東岸」から来ている。
- 3) 「ドゥンガン」は「潼関」に由来する。すなわち、彼らは中国の「陝西潼関」から来ている。
- 4) 「ドゥンガン」は突厥語族の言語の“turup qalghan”（住み続ける、留まり続ける）に由来する。キルギス共和国の著名なドゥンガン学者ムハマド・スシャンロ（蘇尚勞）通信院士にこの種の解釈がある。
- 5) 「ドゥンガン」は「吐谷渾」に由来する。すなわち中国西部の古代民族の名称から

来ている。一般の学者はこの種の解釈に同意していない。

(2) ドゥンガン民族の分布と人口

ドゥンガン民族は中央アジアにおいて主に次のように分布している。

- 1) カザフスタン共和国 約5万人
- 2) キルギス共和国 約6万人
- 3) ウズベキスタン共和国 3千人以上

(3) ドゥンガン民族の経済生活、風俗習慣と言語文字

1) 経済生活 ドゥンガン民族は主に農業生産に従事し、多く種類の穀物、野菜を育て、牛や羊などを飼っている。一部の農民は長距離の輸送や商業経営にも従事している。

2) 風俗習慣 ドゥンガン民族の風俗習慣は主に次のように表すことができる。

- ①みなイスラム教を信奉し、スンニ派に属する。ドゥンガン人の村にはみなモスクがあり、ドゥンガン人は生、老、病、死、婚、葬、嫁、娶などの各面でみな宗教の影響を受けている。
- ②ドゥンガン人の男女の服飾はロシアと中央アジアの各民族人民の影響を受けている。しかし、青年が結婚する時は依然として清朝時代の中国漢族、満州族、回族の衣装に基づいて着飾る。特に新婦は古代婦人の髪型で梳ることになっている。飲食の面では、麺類を主とし、油で炒めたいろいろな料理を食べることを好み、またロシアと中央アジア各民族の影響を受けており、パンを食べ、ピラフやナンなどを食べる。住居はみなロシアや中央アジア農村のブリキ屋根の平屋であり、農村の家々は塙で囲った住宅があり、多くの家屋はなおも中国のオンドルを留めている。普段の出入りは家々でみなが持っている自家用車に頼っており、非常に便利である。

3) 言語文字

- ①ドゥンガン民族の言語は清朝末年の中国語陝西方言、甘粛方言の基礎の上にロシア語と中央アジアチュルク語族の言語の影響を受けており、発展した一種の中国語陝西甘粛方言の国外中央アジア変種であり、中国語と並行した一種の言語をまだ形成してはいない。文法上基本的に中国語の特徴を保持しているが、いくつかの変化もある。例えば、非生命を表す名詞にも「們 (mu)」<sup>4)</sup>を加える。すなわち「教室們 (jiaoshimu)」となる。語彙の中に大量のロシア語からの借用語を吸収している。音韻の面では、相当数のアラビア語、ペルシャ語の語彙があるので、それは中国語よりも多く語頭の顫動音 [r] が現れる。
- ②ドゥンガン人が中央アジア地域へ移住した時、中国回族人がアラビア文字の字母で自分の口語を記録する伝統を携えてきた<sup>5)</sup>。十月革命後、20世紀の20年代、この種の字母の基礎の上に一揃いのアラビア字母ドゥンガン文字を整理して生み出した。ソ連のいくつかの民族でラテン文字化改革を進めた時、ドゥンガン文字も創成された。20世紀50年代にまたロシア文字の字母で新しいドゥンガン文字を創成し、新聞、雑誌と書籍を出版した。キルギス共和国ではまたドゥンガン語のラジオ放送がある。ドゥンガン人が集住する村ではドゥンガン語とロシア語を使ってバイリンガル教育を進める中学校、小学校がある。中央アジアの各国が独立し

て以来、ドゥンガン学校ではロシア語、ドゥンガン語を学ぶほか、所在国の言語、すなわち国語を学ぶことになっている。

#### (4) ドゥンガン学研究の概要

ドゥンガン学はドゥンガン族の歴史、言語、文学、芸術、民俗、宗教及び社会発展の諸形成部分を研究する学問分野である。19世紀末から、ロシアの士官将校、地理学者は中央アジアに移住したドゥンガン人の資料に注意し、それを収集し始めていた。20世紀30年代から、ドゥンガン人のためにラテン字母の文字を創成することに結びついて、ソ連ではドゥンガン人についての研究活動を進めたが、ドゥンガン学の形成としては50年代から始まったとするべきである。この時期、ドゥンガン人の中で一群のドゥンガン民族の研究者が養成された。キルギス科学院では、ドゥンガン人の歴史、言語、文学、民俗及び社会経済等の各分野を研究する研究機関が設立された。キルギスでは先ず研究グループ、研究室が設立され、後に「ドゥンガン学分部」(研究所に相当する)へと拡張した。現在はドゥンガン学-中国学研究センターに改められた。その他に、ロシア、ドイツ、日本、オーストリア、オーストラリア、アメリカ合衆国、メキシコ及び中国では、それぞれ研究機関と学者がドゥンガン学の分野の研究を進めている。中国では、20世紀50年代にドゥンガン語を研究する学者がいたが、計画的にドゥンガン学の研究が発展したのはやはり前世紀80年代末、90年代初めである。1999年1月19日、中央民族大学に東干学研究所が成立し、ドゥンガン族の歴史、民俗、言語の分野を研究する博士を養成し、専門書を出版し、また国際交流を進めた。2003年9月25-27日、中国北京市において東干双語国際研究討論会が挙行された。日本の東京でも2012年ドゥンガン学研究会が設立された。代表者は東京外国語大学名誉教授菅野裕臣氏である。

## 2. 中国の回回民族

中央アジアのドゥンガン民族は中国の回回民族を源としている。

### (1) 回回民族の民族名

回回民族は、回族と簡称される。民族名の来源は以下の何種類かの解釈がある。

- 1) 「回回」は「回紇」の言い方から来ている。すなわち「回回」はイスラム教を信奉する「回紇」の子孫である。「回回」は「回紇」の音変化である。
- 2) 「回回」は「ムスリム」(イスラム教を信奉する人)である。宋、元、明の時代、我が国は書面上イスラム教を信奉する各民族をみな「回回」と称していた。
- 3) 「回回」は「帰っていく」の「帰る」から来ている。回回人の先祖は多く唐代にアラビア、ペルシャ一帯から来ていると言っている。彼らの祖先は初めて中国内地に來た時、生活にあまり慣れず、度々唐朝の皇帝に故地に「帰」りたいと願いを提出していた。度々「帰る」、「帰る」と言うので、後に彼らは「回回」民族となった。
- 4) それぞれの民族の回回民族に対する読み方も同じではない。回族の中に「馬」という姓の人が割合多いので、彝族は「馬馬」あるいは「黒黒」(「回回」の音変化)と呼んでいる。雲南省も傣族などの少数民族は「帕西」(「帕爾西」、すなわち「ペルシャ」から来ている)と呼んでいる。チベットのチベット族は回族は「卡切」(克什米爾から來た人)と呼んでいる。そこでは多くのイスラム教徒は克什米爾から來ていた。チュルク語族の民族の人は回族を「東干」あるいは「同干」として

いる。

(2) 回回民族の形成

中国の唐、宋時代、西アジアには中国内地にやってきた一群のアラビア人、ペルシャ人がいた。ある者は商売を営み、ある者は布教をし、また官職に就く者も少数いた。その中の多くは広州、泉州、揚州に留まり、彼らは最初は外国人居留民であり、その後その地の住民となった。元代に至り、ジンギスカンの遠征の時、また一群の中央アジアの各民族のイスラム教徒が中国各地にやってきた。彼らには、屯田する者もあり、職人となる者もあり、兵となる者もあった。また、一部はフィリピン、マレーシアなど南洋一帯から来たイスラム教徒もいた。このように国外から来た各民族のイスラム教徒が、中国のこの土地で、イスラム教を紐帯とし、日常生活では既に通用言語の中国語を共通言語とし、またモンゴル族、ウイグル族、漢族などの民族と通婚融合して、元末、明初に1つの新しい民族——回回民族を形作った。

中国の回族はイスラム教を信奉し、スンニ派に属する。各地にはモスクがあり、著名なものに、広州の懷聖寺<sup>6)</sup>、牛街礼拝寺<sup>7)</sup>、泉州、杭州、揚州及び西安、南京などのモスクがある。

(3) 回回民族の人口とその分布（2010年統計、単位：万人）<sup>8)</sup>

地区別		人口数	比率	順位
全 国		1058.61	100.00	
東 部	北 京	24.92	2.35	10
	天 津	17.77	1.68	14
	河 北	57.02	5.39	7
	上 海	7.82	0.74	22
	江 蘇	13.07	1.24	16
	浙 江	3.82	0.36	26
	福 建	11.60	1.10	18
	山 東	53.57	5.06	8
	広 東	4.51	0.43	25
中 部	海 南	1.07	0.10	29
	山 西	5.97	0.55	24
	安 徽	32.81	3.10	9
	江 西	0.89	0.08	31
	河 南	95.80	9.05	4
西 部	湖 北	6.72	0.63	23
	湖 南	9.47	0.89	21
	内 蒙 古	22.15	2.09	12
	広 西	3.23	0.31	27
	重 慶	0.91	0.09	30
	四 川	10.45	0.99	19
	貴 州	18.48	1.75	13
	雲 南	69.83	6.60	6
	チベット	1.26	0.12	28
	陝 西	13.87	1.31	15
	甘 肅	125.86	11.89	2
	青 海	83.43	7.88	5
東 部	寧 夏	217.38	20.53	1
	新 疆	98.30	9.29	3
	遼 寧	24.58	2.32	11
	吉 林	11.88	1.12	17
	黒 竜 江	10.17	0.96	20

香港、アモイ、台湾に合わせて約10万人が住んでいる。

その他、中央アジア各共和国に11万人、インドネシア、マレーシア、サウジアラビアなどの国にも回族は住んでいる。

#### (4) 回回民族の言語の特徴

回回民族は現在中国語を使用しているが、海南省三亜市付近の地域に住む回族の村の人は依然として家の中では一種のマレー語に近似した言語を話している。その他の各地域の回族はみな中国語を話しているが、言語の中になお多くのアラビア語、ペルシャ語を留めている。例えば、多斯提（友人）、杜什曼（敵）、郭西（肉類－牛、羊肉）、胡凱（豚肉）、乃瑪孜（礼拝）、賽閃拜（火曜日）、主麻（集団礼拝、金曜日）、涅斯（ない）など。また、いくつかの中国語の単語を使用するが、漢族の人が使用する意味ではないものもある。例えば、口到（味わう、味をみる、食べる）、無情（亡くなる）、油香（回族人の家は祭日あるいは祭祀活動を行う時作る一種の油で揚げたピンズ）など。

#### (5) 回回民族の貢献

回回民族は中国で形成されて以来、彼らは祖国の建設と防衛の種々の闘争の中で自己の貢献をなした。ここにいくつかの例だけを挙げる。

- 1) 北京城は依合迪爾丁<sup>9)</sup> という名の回回人が設計建築した。
- 2) 明代七度南洋・インド洋に出かけたリーダー鄭和<sup>10)</sup> は雲南の回族人である。
- 3) 『華夷訳語』（中国語－少数民族言語及び周辺数種の外国語分類辞典）を編集した亦思馬音<sup>11)</sup> は回族人である。
- 4) 元、明、清代には多くの作家、詩人、画家を大量に生み出している。例えば、薩都拉<sup>12)</sup> など。
- 5) 回族の科学者は、またアラビア－イスラム世界の天文学、数学、医学、哲学などを含む、イスラム文化を中国に紹介し、中華民族文化を豊富にした。
- 6) 回族人のアラビア文字字母を使って中国語を書き記す文字を「小児錦」<sup>13)</sup> と言い、これは中国語ピンインの最初の試みである。
- 7) 侵略に反抗する戦争においても、また多くの愛国将校を生み出した。例えば、左宝貴<sup>14)</sup>、馬本齋<sup>15)</sup> など。

#### (6) 回族学研究的概要

回族学は回族の歴史、文化、民俗、宗教、経済、社会発展の各分野を研究する学問分野である。中国と外国における回族についての研究はすでに長い歴史を有している。現在中国の北京、寧夏、蘭州、西寧、烏魯木齊、南京、武漢、広州、昆明など多くの都市の大学と研究所にはみな回族学の研究を進めている学者がいる。寧夏編纂出版の『回族研究』、新疆編集出版の『回族文学』などの刊行物がある。国外では、中国の回族を研究しているロシア、フランス、アメリカ合衆国、日本、イギリスなどの国の学者がおり、いくつかの著作を出版している。

## 訳注

- 1) 本文は、2013年11月島根県立大学で開催された島根県立大学ドゥンガン学研究会において発表された発表原稿の日本語訳文である。原文の題名は、《中亚的东干族与中国的回回民族》である。なお、島根県立大学ドゥンガン学研究会開催については、島根県立大学平成25年度学術教育研究特別助成金

の助成を受けた。

- 2) 胡振華教授は、1931年中国山東省青島市に生まれ、1953年中央民族学院（現在の「中央民族大学」）語文学部ウイグル言語文学系を卒業後、中央民族学院でキルギス語学文学、チュルク諸語言語学、中国イスラム文化等の教育と研究に従事し、中央民族大学少数民族語言文学学院教授（博士生导师）を長年務め、2004年冬退職（離休）した。現在、中国突厥語研究会副会長、中国少数民族双語教学研究會顧問などを務め、國務院發展研究中心欧亚社会發展研究所研究員、キルギス共和国国家科学科学院名誉院士、キルギスビシケク人文大学客員教授である。
- 3) 1873年「回民蜂起」が、清の左宗棠軍の肅州攻略により終わった後、白彦虎に率いられた陝西回民の軍隊は新疆に逃れ、新疆での反乱に参加した。しかし、1877年新疆全体を制圧した清軍に追われ、白彦虎と彼に率いられた五千名あまりの軍隊は、ロシア帝国領であった中央アジアに逃れた。
- 4) 「們」（普通話ではmen）は、中国語普通話では、“我們（wǒ men）”（私たち），“学生们（xuéshengmen）”（学生たち）のように、人称代名詞“我（wǒ）”（私）や人を表す名詞“学生（xuésheng）”（学生）の接尾辞として複数を表すが、“教室（jiàoshì）”（教室）のように人以外の名詞の後ろについて“\*教室們（jiàoshìmen）”と言うことはできない。なお、動物には用いられる場合もある。
- 5) アラビア文字を用いて中国語方言を記述したもので、「小兒經」、「小兒錦」、「小經」、「消經」などと呼ばれる表記法のことである。古くは元代の碑文に漢族の人名をアラビア文字で記したものがある。回族、東郷族、撒拉族などがコーランを子どもたちに教える際に用いていた。
- 6) 広州市越秀区にある唐代初期に建立されたモスク。中国で最も古いモスクの1つである。
- 7) 北京市西城区にある北京最古のモスク。北宋時代の996年、アラビアから来たイスラム教伝道者により建立された。現存する建物は明代のものである。
- 8) 2010年に実施された「2010年第六次全国人口普查」の結果に基づいて作成された。
- 9) 依合迪爾丁（？-1312年）は、元代初期の西方から来たイスラム教徒の建築家。1266年からフビライ・ハンの命により、大都（現在の北京）の宮殿や都城の設計建設に携わる。也黒迭兒、也黒迭兒丁、亦黒迭兒、亦黒迭兒丁と表記されることもある。『新元史』列伝第48に「也里迭兒」の名で伝がある。
- 10) 鄭和（1371年-1434年）は、明代の武将。雲南出身のイスラム教徒である。1405年から7回にわたり、南海への航海を指揮した。東南アジア、インド、アラビア半島に至り、遠くはアフリカ東海岸に達した。
- 11) 亦思馬音は、明代の公的なペルシャ語教科書『回回館訳語』の編纂に参加したと伝えられる。亦思馬因、亦思馬依勒とも呼ばれる。『回回館訳語』は、『蒙古訳語』、『女真訳語』などととも『華夷訳語』に含まれている。
- 12) 薩都拉（1272年（？）-1355年）は、元代の詩人、画家で、書家。雁門（現在の山西代県）出身のイスラム教徒である。著作に『雁門集』がある。また、絵画には『巖陵釣台図』や『梅雀』などがある。
- 13) 訳注5) 参照。
- 14) 左宝貴（1837年-1894年）は、清代末期の武将。山東省費県（現在の平邑県）出身の回族。江南軍営に入り、太平天国軍を鎮圧するなど活躍する。1984年、日清戦争に従軍し、朝鮮で戦死する。
- 15) 馬本齋（1901年-1944年）は、日中戦争時代の軍人。河北省滄州獻県出身の回族。東北陸軍講武堂卒業後、東北軍に従軍するが、1931年の柳条湖事件後、蒋介石の不抵抗政策に反対して帰郷。1938年、八路軍に入隊し、同年共産党に入党。冀中軍区回民支隊を創設し、隊長となって活躍する。1944

年病死。

キーワード：ドゥンガン族 回族

(INUZUKA Yuji)

